

ギャンブル等依存症について

2024年10月19日(土)

医療法人耕仁会 札幌太田病院

精神科 正木慎也

本日の目次

【1】 診断

【2】 合併する精神疾患

【3】 治療

【4】 近年の傾向

なににはまるか？

⇒「もの」でも「行為」でも根っこは同じ

• ものへの依存

- アルコール
- 違法薬物
- オピオイド
- 有機溶剤
- ニコチン
- カフェイン
- 鎮痛薬・睡眠薬・抗不安薬

• 行動嗜癖

- ギャンブル
- インターネット
- ゲーム



ほかにもある依存的な行動

買い物による浪費・借金
過食・拒食・ダイエット
自傷行為 恋愛 性行為
仕事・運動 等

ICD-10から

- ・社会的、職業的、物質的および家庭的な価値と義務遂行を損なうまでに患者の生活を支配する、頻回で反復する賭博のエピソードを認める
- ・自分の仕事を危機に陥れ、多額の負債を負い、嘘をついたり法律を犯して金を得たり、あるいは負債の支払いを避けたりする
- ・賭博をしたいという強い欲求を抑えることが困難であり、それと共に賭博行為やそれを取り巻く状況の観念やイメージが頭から離れなくなる
- ・これらの没頭や衝動は、生活にストレスが多くなると、しばしば増強する

DSM-5による診断基準

A. 以下のうち12か月以内に4つ(またはそれ以上)により示される持続的・反復的な不適応賭博行為

- (1) 興奮を得たいがために、掛け金を増やしたい欲求(耐性)
- (2) 賭博回数を減らしたり、やめたりすると落ち着かなくなる(離脱)
- (3) 賭博を減らす、やめるなどの努力を繰り返したが、成功しなかったことがある(コントロール障害)
- (4) 賭博にとらわれている(強迫的欲求)
- (5) 問題からの逃避手段として、または不快な気分の解消手段として賭博をする(不快感情回避)
- (6) 賭博による損失金を別の日に賭博をして取り戻そうとする(負け追い)
- (7) 賭博へののめり込み(借金の事実など)を隠すため、嘘をつく(嘘/罪悪感)
- (8) 賭博のため、重要な人間関係や社会参加の機会を危険に陥らせたり、失ったりした(社会機能障害)
- (9) 賭博による破産の危機を逃れるために、尚も借金しようとする(経済的破綻)

B. これらの賭博行為は、躁病エピソード(だけ)ではうまく説明されない。

ギャンブル等依存症の特徴

- ・生涯で3.6%、過去1年では0.8%の人が疑われる
- ・開始年齢は一般より早く、平均で男性19歳、女性20歳である
- ・男女ともパチンコとパチスロが最多で競馬、競艇、競輪が次ぐ
- ・目的は男性では金稼ぎで、女性ではストレス解消が多い
- ・小児逆境体験を有する割合は31.4%と高い

合併する精神疾患

米国での大規模疫学調査では...

48%にアルコール依存症

11%に薬物依存症

37%に大うつエピソード

41%に不安障害

がみられた

そのほかにもADHDやパーソナリティ障害など

自殺のリスク

- ・一般に依存は、その種類が何であれ自殺のリスクが高いことが知られている
- ・希死念慮の割合、自殺企図経験は男女問わず高い
- ・生活状況が厳しく、多額の金を使い、ギャンブルに対する渴望のレベルが高い程、自殺のリスクが高いことが示唆されている

ギャンブル等依存症の治療

①動機づけ面接

“ギャンブルを止めたいけれど止められない人”という「両価性」に着目し、患者の変わりたいというポジティブな気持ちを高めていくアプローチ

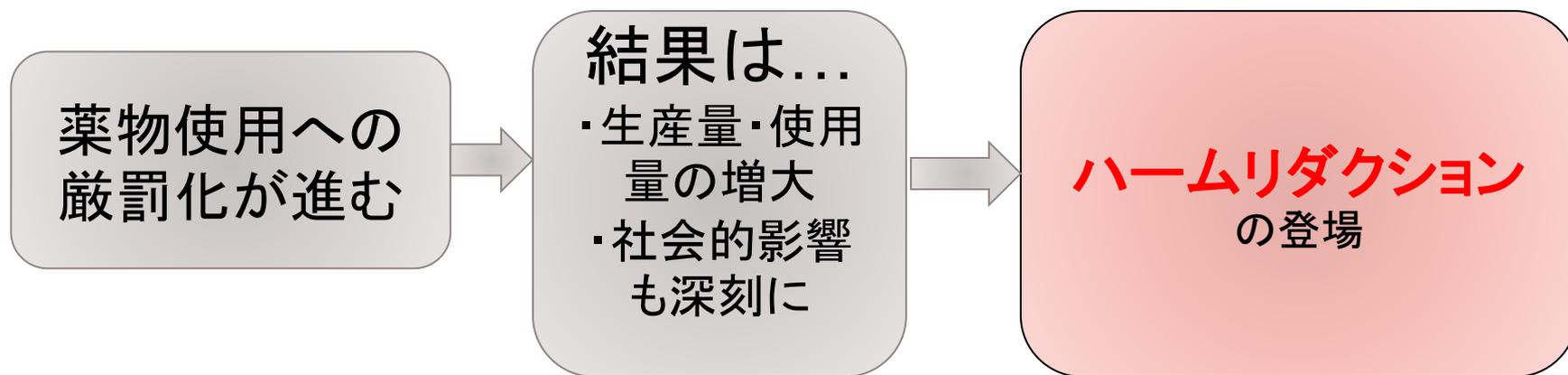
②認知行動療法

いつ、どこで、どのくらい頻繁にギャンブル行動をとっているのかを振り返り、客観的に理解を深める

③ 集団療法/自助グループ (Gamblers Anonymous: GA)

- ・ギャンブラーズ・アノニマスは、ギャンブル等依存症に苦しむ人の貴重な回復の場
- ・多くの体験を聞く中で、恥ずかしいという感覚が薄まり、自分の事を話しやすくなる
- ・正直さを取り戻し、結果として病気についても認めやすくなる

ハームリダクション 「害(ハーム)の低減(リダクション)」



ハームリダクションは、「違法であるかどうかに関わらず、精神作用性のあるドラッグについて、必ずしもその使用量は減らなくとも、その使用によって生じる健康的・社会的・経済的な悪影響を減少させるために行われる政策・プログラムと、その実践」

具体的には...

- ・「安全なもの」への切り替え
⇒「使用ゼロ」ではない
- ・依存が続いていても見放さない
⇒使用者を排除するのではなく、「害を減らす」態度で関わり続ける
- ・薬物依存に限らない！

コロナ禍で変わったこと

- ・生活環境や対人関係の変化、リモートの普及は様々なアディクションのリスクを高めている可能性がある
- ・現地で行うギャンブル(オフラインギャンブル)が減り、インターネットを介したオンラインギャンブルが増えた
- ・コロナ禍で3密を避ける措置などから、パチンコ市場が大幅に下がり、オンラインによる公営ギャンブルの投票や売り上げが拡大した

オンラインとオフラインのギャンブル比較

・オンライン使用者とオフライン使用者と比べて以下のような示唆が為されている。前者は後者に比べて...

- ①より年齢が若い
- ②1日で勝つ金額が大きい
- ③1日で負ける金額も大きい
- ④借金額が大きい
- ⑤ギャンブルへの入れ込み度が大きい

今後、オンラインギャンブル依存症については注意深いモニタリングと有効な対策の施行が欠かせない。

South Oaks Gambling Screen(SOGS)

- ギャンブルで負けたとき、負けた分を取り返そうとして別の日にまたギャンブルをしたか
- 実際はギャンブルで負けたときも、勝っていると嘘をついたことがあるか
- 自分には、賭けごとやギャンブルの問題があると思ったことがあるか
- 自分がしようと思った以上にギャンブルをしたことがあるか
- ギャンブルのために人から非難を受けたことがあるか
- ギャンブルのやり方やその結果生じた事柄に対して、悪いなと感じたことがあるか

□ギャンブルをやめようと思っても、不可能だと感じたことがあるか

□ギャンブルの証拠となる券、資金などを家族の目に触れぬよう隠したことがあるか

□ギャンブルが原因となる金の使い方に関して、家族と口論になったことがあるか

□借りた金をギャンブルに使ってしまい、返せなくなったことがあるか

□ギャンブルのために、仕事や学業をさぼったことがあるか

□ギャンブルに使う金はどのようにして作ったか、またどのようにして借金をしたか、該当する者には全てチェックを入れること

生活費 配偶者 親類・知人 銀行・ローン会社・信用組合 クレジットカード サラ金
や闇金融 株券・債券・保険を換金 自分または家族の財産を売却 当座預金口座
(不正な小切手を発行)

LOST

□Limitless

ギャンブルをするときには予算や時間の制限を決めない、決めても守れない

□Once again

ギャンブルに勝ったときに「次のギャンブルに使おう」と考える

□Secret

ギャンブルをしたことを誰かに隠す

□Take money back

ギャンブルに負けたときにすぐに取り返したいと思う

* 直近1年間のギャンブル経験に当てはめて、二つ以上に「はい」と答えたなら、ギャンブル依存症の危険度が高い



再発は想定内

行きつ戻りつ進むもの

「一日だけやめる」それをくり返していく



参考文献

1. WHO ICD-10 臨床記述と診断ガイドライン
2. DSM-5 精神疾患の診断基準・診断分類
3. ギャンブル等依存症の治療・家族支援に関する研究
4. 「ギャンブル障害およびギャンブル関連問題の実態調査」
5. アディクション診療・支援ガイド
6. 精神医学 Vol.66 No.7 2024
7. 精神科治療学 増刊号 Vol.38 2023
8. 精神科治療学 Vol.38 2023
9. 臨床精神医学 Vol.51 No.4 2022

ご清聴ありがとうございました